

対象	小学校高学年以上
教科	理科・総合学習
該当 単元	小学6年 「生き物と環境」 ・食べ物をとおした 生き物のかかわり 「地球に生きる」 など
教科書	東京書籍等
掲載日	2016.9.14. 朝刊 12版 15面

問1：アライグマは、なぜ「特定外来生物」に指定されているのでしょうか。

日本の()を脅かすから。

問2：アライグマの特徴を整理しましょう。

原産地：()

体長：(~)cm

食べる物：()

特徴：()が高い

全国各地にすみついた理由

アライグマ 生息域拡大



名古屋市内で捕獲されたアライグマ＝天白区で(なごや生物多様性センター提供)

病原菌保有も「見つけたら連絡を」

生態系を脅かす「特定外来生物」に指定され、名古屋市内でも生息域を広げるアライグマ。活動的になる秋を迎え、なごや生物多様性センター(天白区)は「病原菌を持つ場合もある。目撃したら近づくずに連絡を」と呼び掛けている。(小椋由紀子)

アライグマは北米原産で体長六〇―一〇〇センチ。一九七〇年代にペレットとして多く輸入されたが、手に負えなくなつて捨てられたり、逃げたりして増え、全国各地にすみついた。雑食で繁殖力が高く、緑地やため池、住宅街などさまざまな環境に適応し、農作物や人家、ごみの収集場所を荒らしたり、希少生物を食べたりといった被害が出ている。

市内では、北部の河川沿いや緑地から生息域を広げ、現在では名駅や栄地区などの繁華街も含め、全十六区で捕獲されている。市は二〇一四年から捕獲箱の貸し出しに加え、職員が出向いて住民と連携して効果的な捕獲をする防除作戦に乗り出し、年間約四十匹を捕獲している。

アライグマは春に繁殖し、九、十月は親子連れでエサを探して動き回る。一見かわいいが、鋭い爪や歯を持つ。

つ。センターは、むやみに刺激しないことや建物にすみつくのを防ぐため、ペットのエサやごみを放置しないよう呼び掛けている。☎なごや生物多様性センター＝052(831)8104

問3：生息域の広がりをまとめ名古屋市が行っている防除作戦書きましょう。

市内の生息域：北部の()や()から()を含め全域へ。

防除作戦①()

防除作戦②()

発展：見た目はかわいいけれど、病原菌をもっている可能生もあるアライグマ。

わたしたちが気をつけることはどんなことでしょうか。

()
()

【活用にあたって】

環境問題には地球温暖化をはじめ、多種多様なものがあります。理科では「人の暮らしと環境との関わりに興味を持つ」ことから学習が始まり、空気や水との関係を中心に学びます。身の周りで起きている環境の変化が、暮らしにどのような影響を及ぼすのかは、新聞の記事を有効に活用することで学べると思います。「かわいい」という思いに隠れた問題点と私たちが主体となる対策を考えていくきっかけにしてほしいです。

解答例

問1：生態系

問2：原産地(北米) ・ 体長(60～100)cm

食べる物(雑食) ・ 特徴(繁殖力)が高い

理由(1970年代ペットとして多く輸入された後、手に負えなくなって捨てられたり、逃げたりして増え、全国各地にすみついた)

問3：市内の生息域(河川沿い)(緑地)(名駅、栄など繁華街)

防除作戦①捕獲箱の貸し出し

防除作戦②職員が出向き、住民と連携した効果的な捕獲

発展：(むやみに刺激しない)

(ペットのエサやごみを放置しない)